

### 4. 現代に息づく城下町ー絵図をみて歩けるまちー

#### 【ストーリー】

現在の市街地の街区は、約400年前に池田家が整備した町割が基礎となっており、約350年前に赤穂を治めた浅野直長は、城下町を拡大整備したが、基本的な町割を変えることはしなかった。

旧城下町は、昭和40(1965)年代の区画整理及び平成の「お城通り」整備によって若干の改変を受けたが、ほとんどの町割りは現在も残っている。

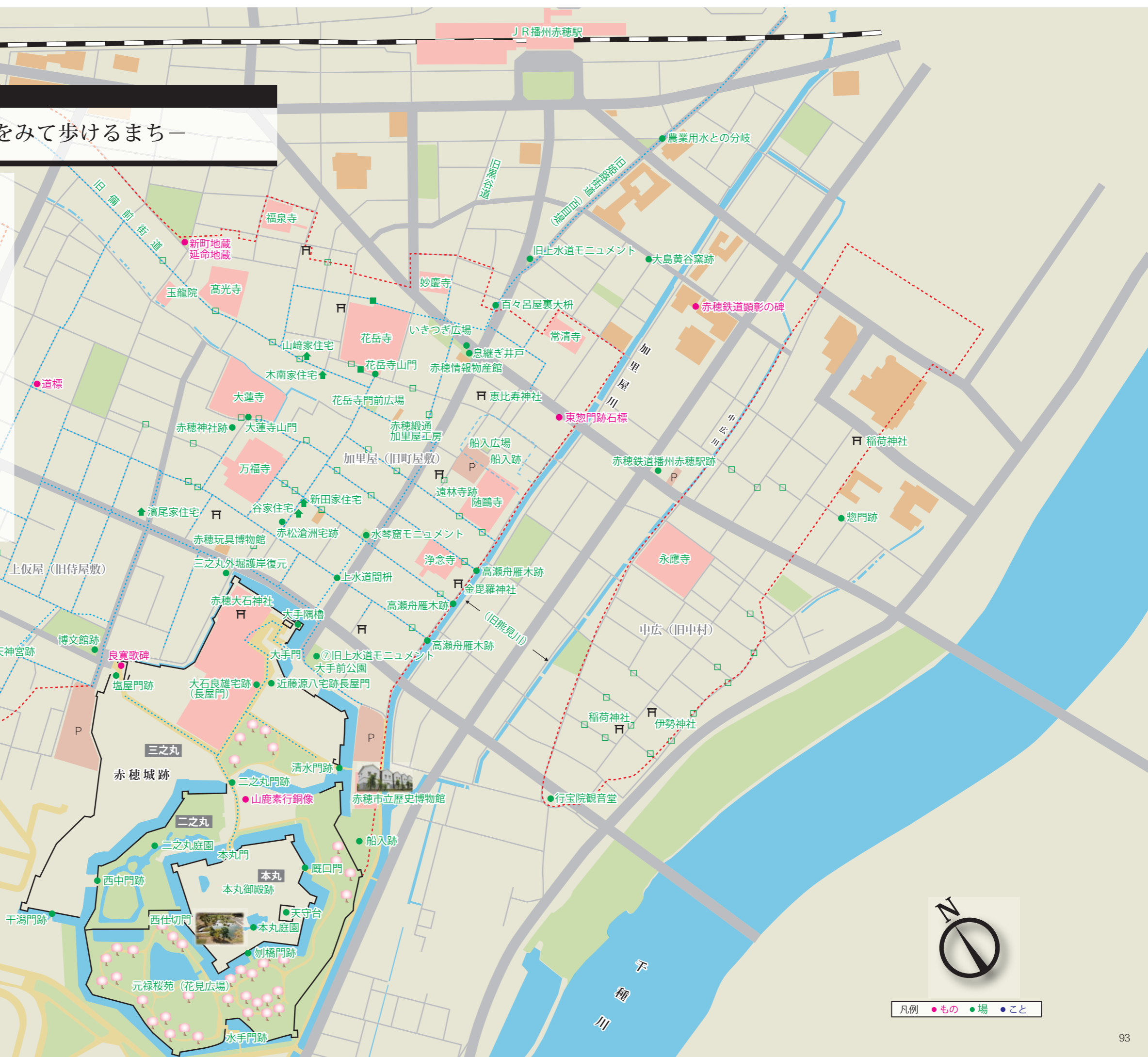
赤穂城下町には東の姫路、西の備前への街道が接続しており、その防備として東西に惣門が築かれたほか城下や街道沿いに10の寺が配された。

また、城下町の町家周辺では単純な十字路を形成することはほとんどなく、いずれも鍵型にずれて設定されたほか、突然道幅が狭くなっていたりしていた。一方侍屋敷では、絵図に描かれないような細い道や、行き止まりなどが設置されていたが、その景観の多くは今も残されている。



- - - 浅野時代(元禄期)の城下町・中村推定範囲  
 ..... 江戸時代の旧上水道ルート  
 ▲ 赤穂市市街地景観重要建築物  
 □ 武者隠し  
 ■ 鍵型街路

0 100 200 300m  
1:5,000



凡例 ●もの ●場 ●こと